

【抄 録】

## 『歯科技工の学際的展望とフィロソフィー』

日技認定講師 **佐藤 幸司**  
(愛知県歯科技工士会)

近年、グローバル化した時代に歯科医療人としての専門性を、歯科技工を通じて広い視野で社会に貢献できる歯科技工士が求められていると思われます。歯科技工の原点は、失われた口腔臓器の機能回復技工にあると考えています。

デジタル時代の歯科技工に何を求めるかと言われれば、仕事の合理化や精密度あるいは品質管理を考えるが、歯科技工士が医療人として職業観を考えるときヒューマンテクノロジーが重要であります。

つまり、歯科医療従事者として歯科医療に貢献するために『社会的な役割』『個性の発揮』『生活の質』といった職業人の三要素が大切であります。新時代における歯科技工士として充実した日常を送るために皆様と共に考察してみたいと思います。

また近年、臨床に即したシェードテーキング（人工歯選択）法の変革により客観的な選択方法を解説し、計測データの活用法について、歯科技工の動向と現状についても包括的に考察したいと考えています。

【抄 録】

## 『総義歯製作の客観的なガイドライン』

日技認定講師 **佐藤 幸司**  
(愛知県歯科技工士会)

超高齢社会を迎え高齢者歯科医療ニーズの動向も口腔ケアの充実が求められ、健康義歯の質的需要が高度化して来ています。

また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化して来ていると思われます。義歯製作もより簡便で客観的な根拠により効率的な“二義的人工臓器 義歯“の製作システムと供給体制が求められています。

そこで、三重県歯科技工士会主催の生涯研修では、総義歯製作の基本となる客観的ガイドラインについて考察予定です。

また、義歯の咬合は無歯顎臨床で最も重要な要素であり、印象採得・咬合採得から得られた模型を分析し正確に咬合器装着を行い、客観的な人工歯排列と症例に応じた咬合の付与について講演する予定です。

無歯顎補綴の仮想咬合平面の設定基準と患者固有の咬合彎曲は重要な要素であります。デジタル技工の時代に歯冠修復・インプラント補綴製作のガイドラインとして、咬合平面設定基準と咬合の付与となるガイドラインが重要であります。

解剖学・発生学・生理学から異なる臨床症例に対する咬合平面の設定と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮し適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式の付与について考察します。

最後に時間が許せばデジタルデンチャーの展望についても考察し、時間の許す限り聴講していただいた皆様と共にディスカッションし有意義な生涯研修になれば幸いです。